



北の経営者たち①

▲ 稚内市

JR稚内駅の駅前広場から稚内公園に向かって直進すると稚内郵便局があり、そこから新庁舎の稚内市役所、総合文化センター、N T T 東日本稚内ビル、さらに市立稚内病院といった施設が南に向かって配置されていますが、この並びは偶然できたものではありません。いまから70年以上前に、ある建築家が立案した都市計画が基礎となり街づくりに活かされました。その人の名は丹下健三。

いわずと知れた日本建築界の巨匠で、広島平和記念資料館や国立代々木競技場体育館、東京都庁舎などの設計者です。現在の地方都市で提唱されるコンパクトシティの概念をいかに先取りしていたかが分かる事例です。そんな稚内駅やバスターミナル、フェリー乗り場も近い、交通アクセスが抜群な中央地区に、かつて「稚内モシリパユースホステル」がありました。夕食を頼むと鮭イクラ丼とホタテの味噌汁。朝食には熊の絵が焼きたtoastなどが名物でした。宿代の現金でのお釣りに南極観測船とタロジロがデザインされた記念硬貨が使われ、通信紙の切手にはお年玉切手が貼られていたとか。宿泊者の誕生日にはバースデー菓書を届け人気を不動のものにしていました。



①中央2丁目、モシリパ外観。②名物の稚内産えぞ鹿カレー（朝食例）。③リビング。④ドミトリ。⑤ツインルーム。シングルや和室も完備。

旅人からゲストハウス経営に

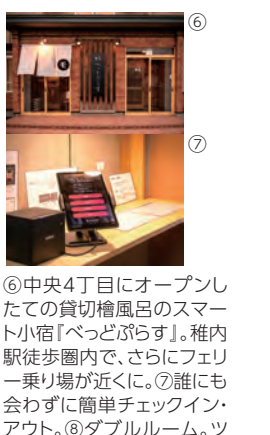
「モシリパはアイヌ語で、モシリは国や土地、パは果て、端っこという意味です。40年近く全国、時には海外からの旅人に愛されてきた稚内モシリパユースホステルを、平成31年に関東から稚内へ移住してきた私たち家族が引き継ぐことになりました。モシリパのネーミングはそのまま活かし、ゲストハウス『モシリパ』として新たに開業するために施設・設備のなかで古くても歴史的に意味や価値のあるものは残し、使えないと判断したものは改修工事を行ったり新調したり。そうしてオープン以来、コツコツと手を加えながら、自分たちにできるサービスを追求し運営してきた結果、おかげさ

武重 謙さん

（株）インエー 代表取締役（狩猟家・作家）

旅業は、挨拶するだけで人を少しでも幸せにできる。とても幸せな仕事だと思う。

で「安いのに、機能が揃っている綺麗」「居心地のいい宿ですね」「食事が美味しい」「朝、自分で挽いて淹れる珈琲が最高」など一定の評価をいただけるようになりました。お部屋はバックパッカーやライダーの一人旅、グループ、ファミリーなど利用形態に応じて選べるようドミトリ（男女別相部屋）のほかに個室もご用意しています。シャワーや洗面台、トイレなどは共有スペースとなり、交流の場となるリビング、キッチンも備えています。もちろん、宿泊料金は一般のホテルや旅館に比べて抑えているのが特徴です。また、ご注文に応じて朝食の提供と新店舗『丸モ』での夕食案内を行っています。モシリパは稚内駅近く



⑥中央4丁目にオープンしたの貸切檜風呂のスマート小宿「べっどぶらす」。稚内駅徒歩圏内で、さらにフェリー乗り場が近くに。⑦誰にも会わずに簡単チェックイン・アウト。⑧ダブルルーム。ツインも完備。⑨貸切檜風呂。

に立地するため周辺には多くの飲食店があります。しかし季節や時間帯によっては、旅行滞在時にどこのお店にも入れず、コンビニに頼らざるを得ない場合もあるため、食事を確保できるよう利便性を高めています。お話しした通り、私どもは関東からの移住組ですが、もともと私は（妻も）旅人でした。前職はシステムエンジニアで、8年ほど秋葉原で仕事をしていました。その時代にバイクの免許を取り、乗りはじめると、当然にもツーリングに出たくなります。最初は日帰り。それが1泊になり、2泊3泊と、どんどん長引いて。やがて長期休暇のゴールデンウィーク、シルバーウィークを利用して9泊10日。でもまだ足りない、もっと長い

※チェックイン・チェックアウトの可能な時間帯、宿泊料金などはホームページでお確かめください。

武重さんの文筆活動は世界一周の旅でも続けられ、旅先で書いた小説を世界新聞(Web)に発表していた。



仕事もライフワークも早くはじめて、どんどん改善する。

——私の信条

旅をしたいと思うと、会社をやめるしか方法がありません。それで退職し、貯めたお金で2人で世界一周の旅に出ました。

中国から入ってモンゴル、ベトナム、マレーシア、インドネシア、タイ、ミャンマーなどの東南アジア諸国から南アジア、中央アジアから中東、そしてヨーロッパの国々、さらに南米に飛び、アメリカを経て26カ国を周って帰ってきました。

2年4ヵ月におよぶ旅のなかで最も多い体験と出会いは、飲食店と宿でしたから、帰国後に私たちができる仕事は、旅する人の気持ちができる「宿」しかない、箱根で民泊をはじめました。宿泊者の多くが外国人でしたが、旅慣れた私たちがコミユニケーションに困ることはなく、業績も順調に推移しました。ところが、やがて子どもが生まれると民泊という事業形態に限界を感じ、全国でゲストハウスができそうな場所や

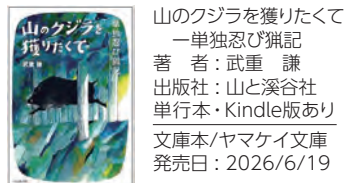
物件を探すことにしました。

実は、稚内に来たことは一度もありませんでした。そればかりか旅で北海道に来たことすらなかったのですが、南富良野あたりがイイんじ

やないかと探し歩いている時でした。たまたま札幌で入った小料理屋の女将さんと話をしていたら『あら、私のお友だちが宿を売ってたがっているわ。稚内だけど』と、偶然そういう情報を得たのです。さっそく連絡を取ると、その人がまさにモシリパユースホステルの前オーナーさんで、とても感じのいい方で即決しました。ではなぜ、訪れたこともないのに、ここではじめたのかと言いますと、宿泊業は観光業でもあるため、稚内には「最北」という何があっても揺るがない観光資源があるからです。こは、日本の旅の終わりであり、はじまりの起点になる場所なのです」

狩猟家・作家としての側面も

「長い旅をして学んだことは、人はどこに住んでも幸せになれる」ということでした。そして宿主になりたいと思った背景には、自分のふるさとをもちたいという気持ちが芽生えたからです。私が生まれた千葉県



山のクジラを獲りたくて——単独忍び猟記 著者：武重 謙 出版社：山と溪谷社 単行本・Kindle版あり 文庫本/ヤマケイ文庫 発売日：2026/6/19

くは山と溪谷社から出ている私の著書『山のクジラを獲りたくて——単独忍び猟記』に書いてありますので、興味のある方はぜひお読みください。

柏市は大都市のベッドタウン的な街で、それほど郷愁を感じることなく育ったもので、ふるさと自慢できる人が羨ましかったのです。ここなら『タコウまいっしょ!』『ニシン食べできな』って言えます。そんな気持ちだけでやっていけるのかと問われても、あまり根拠の薄い自信をもってスタートしました。ところが翌年から予期せぬコロナ禍となつてしまいました。しかし、災い転じて福となす。じゃありませんが、私は山に入り、えぞ鹿を獲る狩猟を開始し、鹿肉をモシリパの朝食カレーなどに活かすようになりました。

狩猟をはじめたのは箱根時代からです。いつだったか車の中からイノシシが道路を闊歩しているのを目撃し『あれ、食べたらかきとウマイだろうね。獲ってみようかな』と冗談で言っただけでしたが、妻が『いいんじゃない。やってみれば!』。そんな他愛もない会話からはじまった狩猟ですが、グループでの巻き狩り猟ではなく、単独忍び猟というスタイルです。詳しくは山と溪谷社から出ている私の著書『山のクジラを獲りたくて——単独忍び猟記』に書いてありますので、興味のある方はぜひお読みください。

長野に旅館、稚内に2軒目を

「スタッフにも恵まれ、気づいたことはすぐにはじめてどんどん改善する、それを原動力にみんなのヤル気を引き出し、成果をあげてきました。宿をはじめた当初から、最低3店舗はやりたい」という目標をもっていましたので、実現するため令和6年にはM&Aで、長野県に「星降りの宿 やま星」（旅館＋グランピング）を取得し、（株）やま星の代表取締役に就き、一歩、達成に近づきました。今春には稚内市内に2軒目として、モシリパとは形態の異なる、ビジネスユースにも十分に対応する貸切檜風呂のスマート小宿「べっどぶらす」と併設し、モツ煮とおぼんざいの店「丸モ」を開業しました。ホームページをご覧いただければ幸いです」



稚内
ゲストハウス
モシリパ



貸切檜風呂の
スマート小宿
べっどぶらす



モツ煮とおぼんざい
丸モ

Company Profile

株式会社 インエー

稚内市中央2丁目9番5号 ①②0162-73-0270

■事業内容／宿泊業、飲食業、おみやげ等の物販 ■会社設立／平成31年 ■資本金／100万円 ■スタッフ数／6名 ■関連会社／温泉旅館 & グランピング 阿智「星降りの宿 やま星」 長野県下伊那郡阿智村駒場2007-4 ①0265-49-8098

武重 謙さん

昭和57年7月生まれ、千葉県出身。都内でシステムエンジニアとして8年勤務し、退職後、2年4ヵ月かけて世界各国を旅する。帰国後、箱根で民泊施設を開業。平成31年、家族で稚内市へ移住。㈱インエーを設立し、ゲストハウス「モシリパ」を開業。令和6年、長野県の「星降りの宿 やま星」を買収。令和8年、稚内市内に2軒目となるスマート小宿「べっどぶらす」と飲食店「丸モ」を開業。

Personal Profile